



今日から明日へ——

## 不存在のデメリット (無ければ絶対に困る存在)への挑戦

創業50年目に当たる1997年は大企業の経営破綻が相次いで表面化し、日本経済は崩壊寸前とまで言われました。歴史に残る変革期、経営の舵取りが難しい時代です。あらためて「真観政要」の「帝王の業、草創と守成といずれか難しき」が頭に浮かびます。時間は流れ続け環境は刻々と変化するなか企業が生き残り発展する策を講じていく、現状維持は衰退につながることを認識し過去の栄光に溺れることなく新しい未来を創造していく、そこに守成の難しさがあると思います。

51年目を歩き出している我々は半世紀にも及ぶ過去を知りその過去があるため現在があることに感謝し、未来を語り未来を創造する手を打っていかねばならないのです。

ある経営論文に図-1のようなおもしろい図がありました。これは産業が新しい産業にシフトしても基盤的技術はオーバーラップする部分が多く重要であることを示しています。事業の定義でも表現していますようにOGICの技術はこの基盤的技術に属します。そして私は特に三角形abcに

